

会議録

名称	第3回 子ども・子育て会議
開催日時	令和6年9月30日（月） 13:30～15:00
開催場所	各務原市役所本庁舎4階 4-1・4-2会議室
出席者	西垣吉之会長、杉山章副会長、本多雅人委員、水野香織委員、竹内育美委員、小林由季委員、白木京子委員、田島美紗委員、杉山一夫委員、渡辺千尋委員、小川伸委員、横山実希委員、松原里佳委員、山田正継委員、別宮理恵委員、近藤亜矢子委員、江口佑美委員、中山絵里子委員 欠席：藤吉里美委員、座間美奈子委員 事務局：子育て応援課、子ども家庭支援課、健康管理課、教育委員会事務局総務課、学校教育課
議題及び審議結果等の概要	<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none">1 開会2 健康福祉部参与挨拶3 議事 (1) 「地域型保育事業者の認可・確認について」 (2) 蘇原南保育園及びびうぬま第二幼稚園の認定こども園への移行について (3) 「(仮称) 各務原市こども計画」骨子(案)について (4) こども・若者の生活と意識に関する意識調査結果について4 その他5 閉会 <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none">・各務原市附属機関設置条例により、過半数の委員の出席があることから、本会議が有効に成立していることを報告。・傍聴希望者が1名であることを報告。 <p>2 健康福祉部参与挨拶</p> <p>先日の議会にて、こども計画について2人の方から質問をいただきました。計画の重要性についてと計画策定にあたる助言をいただきました。今後計画策定に向けて注目されていることを改めて実感。本日の議題の中に計画についてと審議事項がございますので意見をいただき良い回にしたいと考えておりますので、ご協力お願いします。</p>

3 議事

(1) 地域型保育事業者の認可・確認について

(2) 蘇原南保育園及びうぬま第二幼稚園の認定こども園への移行について

《事務局より説明》 (資料3、3-1、3-2、4、5)

《質疑意見》

【会長】

- ・(1) 地域型保育事業者の認可・確認について 6施設の開設が決定されましたが、ご質問等ありましたらお願いします。

【副会長】

- ・プレゼンテーションにて厳正な選定が行われ判断した。子どもたちの安全が確保できるか意見が出て、適切な法人が選定された。

【委員】

- ・応募された業者が多かった。行政側で毎年、点検を行うと思うが、適切な保育運営をしてもらいたい。

【会長】

- ・(1) 地域型保育事業者の認可・確認については 異議なし。監査は重要になってくるのでぬかりのないように実施してもらいたい。
- ・(2) 蘇原南保育所及びうぬま第二幼稚園の認定こども園への移行について ご質問等ありましたらお願いします。

【委員】

- ・うぬま第二幼稚園が幼稚園型認定こども園へ移行することにより1号定員の減少が大きいですが、市としての1号定員が足りるという考えでよいのか。

【事務局】

- ・この点について、2つの観点から補足説明します。

1点目ですが、幼稚園に入所しているお子さんを想定された場合、どちらかの保護者が就労していない状況で入所していると認識されている方が多いと思うが、保護者が2人とも就労している状況で通っており、保育の必要性が認められる児童がいる。

資料5の1ページ目の変更理由に、「現在の園児に新2号認定こども(1号認定の中に新2号認定のこどもがいる)が在園しており」と記載しているが、こちらが幼稚園に通いながら保育の必要性が認められる児童のことを指し、そういった児童が一定数存在している。これらの児童は認定こども園に移行する際に、2号認定の児童として計上し

ている。

2点目は、資料5の2ページ目の、1号認定の定員が455名から86名と大幅に減少している点について説明する。

定員は455名だが、現在の入所児童は150名。認定こども園に移行することにより1号認定の児童が86名、2号認定の児童が66名で、合わせて152名となる。より実態に即した人数に定員を設定しているとうご理解いただきたい。

【委員】

- ・1号認定の待機児童がでてなければ問題はない。

【会長】

- ・1号認定で従来の短時間保育の方の中にも就労している方もおり、延長した保育部分について新2号認定をしているということですか。

【事務局】

- ・その通りです。

【会長】

- ・新2号認定は国が定めた言葉ですか。

【事務局】

- ・国が定めた言葉です。

【会長】

- ・その他、ご質問ありますか。

(2) 蘇原南保育園及びうぬま第二幼稚園の認定こども園への移行について 異議なし。

(3) 「(仮称)各務原市こども計画」骨子(案)について

(4) こども・若者の生活と意識に関する意識調査結果について

《事務局より説明》 (資料1、2、参考資料)

《質疑意見》

【会長】

- ・自由にご発言いただければと思います。

【委員】

- ・数値目標というのは具体的にどのように目標をたてるのか。

【事務局】

- ・こども若者の意識調査の設問内容で回答のパーセンテージをアップさせることを検討している。

総合計画や地域福祉計画においても数値目標を設定しているので設問を検討している。

【委員】

- ・調査について、全体 1,237 人の回答で 10～14 歳の回答が 80.9%、一番回答してほしいのは 15～19 歳。

本当にこの調査結果が実態として良いのか。信憑性はあるのか。

【会長】

- ・データとしての信憑性は良いのか。

【事務局】 島元補佐

- ・小学 5 年生、中学 2 年生については、学校を通じて、それぞれ 500 人の児童生徒が回答している。その他の年代についても、広報誌やウェブサイトへの掲載、高校、大学への依頼など行ったが、これだけの回答数となった。

- ・指標のあり方について、検討し当会議で諮っていきたい。

【会長】

- ・調査のやり方や方法等アイデアがありましたらお願いします。

【委員】

- ・5 年後に参考にならないアンケートを今から 5 年間使用してよいものなのか。

【委員】

- ・アンケートの目的については。
- ・アンケートで目標値を定めるのであれば、目標から適切な質問事項を設定すべき。

【事務局】

- ・アンケートの項目については国のこども若者の意識調査の項目を参考に作成。こども大綱での目標値において「生活に満足していると思う」のこどもの割合の目標値等があり、国を参考に作成した経緯がある。
- ・意識調査は現状を把握するためにとったものであり、この数値を計画の目標値として使用するかは検討事項である。項目については国の意識調査を参考にしているが、国の計画の目標値を本市の計画に取り入れていくかは検討しなければならない。計画を立てる目的は、こども計画は幅広い内容を入れることになっており、子ども・若者の施策、少子化対策の項目なども入れていく。子ども大綱を勘案して作成する。

【会長】

- ・意識調査をもとに、こども計画にどのように位置づけていくかが基本となる。今回の意識調査が各務原市をとらえたものなのか検討したう

えで、再度調査が必要になる可能性もある。一方で、他市町村でも子ども計画にいれるべき内容が幅広いため、困難な状態である。市も4月までに計画を立てるため、自転車操業で進んでいる状態。

- ・各務原市はどこかに焦点を当ててやっていくべきものがあれば、それでもいいと思う。数値化できるものははっきりしているが、意識については難しい。基本理念では全ての子どもたちと親が幸せを実感できる街というものがあるが、捉え方次第で幅広くなる。

【委員】

- ・中1の子どもがいる親さんが特別支援に通っているため、将来を選ぶことができなくなってしまったとのこと。18歳になったとき、自分自身で生活ができるようになることが目標であり、そのサポートをすることが行政の役目ではないか。

【委員】

- ・今課題となっていることがあるため、それを解決するための目標にするのはどうか。基本目標で現在課題となっていることが、本当に解決できるのか。保護者からの相談で一番多いものが、発達と障がいである。昔に比べて障がい児が増えたのではなく、家庭の教育力が下がったため、今までできていたことができない児童が多くなった。できる能力はあるのに、家庭や地域で教育がされていないため、障がいという扱いになっている。家庭の教育力を向上させれば解決できる課題だが、施策として組み込まれていない。

【委員】

- ・従来は子どもの周りについての支援の内容であったが、今回は子ども自身を軸にしたものになっている。どの状態にある子ども、精一杯成長できる場を提供することが大事。

【委員】

- ・今ある課題が見えているのであれば、施策に取り入れることに賛成。アンケートの年齢層を細分化し、細かく分析することで見えるものがあるのではないか。問15と問17のアンケート内容については子ども計画に取り入れていける。ワークショップの未来に向けた支援の提言が一番大事。

【委員】

- ・子どもがお金の心配をしているが、親とコミュニケーションをとる時間もないため、子どもの不安が広がっている。社会全体の問題のため、簡単に解決できない。各務原市として何か一点に絞って施策を作成するのはどうか。

	<p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが周りに気を遣いながら生きており、自己肯定感が低いという状態。ワークショップや意識調査を通して、各務原市の特性があるかどうか考えていく必要がある。国の基本目標の表現をこども計画に入れないといけないのか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども計画は子ども大綱を勘案してということなので、大綱に載っているものは載せていく意向ではあるが、各務原市の特徴も入れていきたいと考えている。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりや障がい者を救う施策があるといいと思う。 <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの幸せの基準はそれぞれ違うため、照準を一般化していくことは難しい。施策で絶対に取り入れるべき項目、新に入れるべき項目をアンケートで集計すればいいのではないかな。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴフォームでアンケートを作成できる。 <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回アンケートの結果をもとに、基本目標を明確にするということでもいいかな。 <p>4 その他</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の開催について案内 <p>5 閉会</p>
会議資料	<p>資料1 「(仮称) 各務原市こども計画」 骨子 (案)</p> <p>資料2 こども・若者の生活と意識に関する意識調査結果</p> <p>資料3、3-1、3-2 地域型保育事業者の認可・確認について</p> <p>資料4 蘇原南保育園認定こども園への移行について</p> <p>資料5 うぬま第二幼稚園の認定こども園への移行について</p> <p>参考資料 「こどもまんなか社会」のための高校生×大学生ワークショップ【実施報告書】</p> <p>参考資料 (仮称) 各務原市こども計画骨子 (イメージ図)</p>
備考	